



緑の東京募金・校庭芝生化事業に 147 万円を寄付 2010.6.17

場所：東京都庁第二本庁舎南側8階環境局長室
日時：平成22年6月17日(木) 14:10-14:40
出席者：[東京都環境局側] 有留武司局長、木村尊彦
参事(緑施策推進担当)、木村秀嘉副参事(緑
化募金担当)、田中大輔係長(募金担当)
[東京キワニス側] 北里会長、中川事務局長、
吉田事業企画委員長

当日は梅雨の晴れ間の蒸し暑い日であった。約束の時間の少し前に局長室を尋ねたところ既に木村副参事が待機されており、すぐに局長室に案内され、挨拶の後まず写真撮影と言う事で有留局長と北里会長の目録手渡しの場面と参加者全員の写真の撮影が行われた。

次に目録の朗読と贈呈が行われ、ここでも写真撮影が行われた。その後全員着席し懇談が行われた。冒頭簡単に自己紹介が行われ、北里会長から手短に東京キワニスの活動につき説明したあと、今回緑の東京募金の校庭芝生化事業に147万円を寄付するようになった経緯等を説明した。有留局長から景気後退の局面から法人の寄付が減っているなか、多額な寄付をいただき大変ありがたいと感謝の意が表された。

今年の寄付の目標は1億2千万円との事でこの経済状況を見ると大変厳しい目標とのことであった。今年は特に公立小中学校と幼稚園などの校庭の芝生化に力を入れており1900校あるなか今まで325校の芝生化が完了しているが今年の目標は100校であるとのことであった。東京都は10年計画の緑化計画を遂行中であるが、年間450-500億円の予算で取り組んで

いる。この計画には海の森、街路樹の整備、校庭芝生化及び花粉の少ない森づくりの4つの柱がある。校庭芝生化は子ども達が安心して遊べる場を提供し環境学習に役立つほかヒートアイランド現象の緩和にも役立つので計画では1000校の芝生

化を目標としている。しかし芝生化は芝を張ってお仕舞でなく、雑草抜き、芝刈りなどメンテナンスが必要であり、その体制をPTAや町ぐるみで作らなければならないので、今までは首長さんが尻込みするケースも有ったが、訪問して意義等をきちっと説明すると納得してもらえるので、やっとこの事業も大きく進み出したよし。東京キワニスでも芝生のメンテナンスのボランティア活動である東京芝生応援団への参加も検討中である旨申し上げると、コミュニティとの繋がりも出来てくるので参加されることを期待しているとの話があった。雑談も含めて約30分の贈呈式であった。
(事務局長 吉田 浩二)

▼東京都のHPに掲載された写真



第44回社会公益賞贈呈式 2010.7.2

第44回キワニス社会公益賞の受賞先は、多数の候補先の中から選考の結果、ボランティアグループさつき(代表：森川雅志氏)に決定し、去る7月2日の例会の席上、贈呈式が挙行されました。

当日はボランティアグループさつきの代表 森川雅志氏とグループが活動している社会福祉法人カリタス

の園、「小百合の寮」施設長松田文枝シスターが出席されました。

ボランティアグループさつきは、ボランティア活動を通じて社会に貢献したいと共通の思いを持った代表の森川氏(61歳)と仲間達の5人で大学卒業後に組織したグループが基になっています。杉並区井草のカリタスの園、「小百合の寮」(児童養護施設)で生活している親との縁の薄い子ども達の力となり、支えとなること



を目指して活動を開始しました。爾来36年、グループ設立当時と変わらぬ熱意で活動を続けておられます。

まさにキワニス社会公益賞

が求めている「世間に知られず酬いられることも少なく、永い間献身的労苦を続けておられる方々を探し求め、その功績に敬意を表すると共に、その尊い存在を世間に紹介したい」との理念にぴったりと言って良いのではないのでしょうか。

現在、当グループのメンバーは30～40名で、学生や比較的若い社会人が中心で、卒業、転勤などで入れ替わりが激しく、立ち上げ当時のメンバーで残っているのは森川氏のみとのこと。

活動内容は子ども達の自立心を育むために、一人の

子どもを一人の大人が1年間担当する特色のあるマンツーマン方式を採っており、施設で子ども達の学習指導、話し相手となる他、毎年のサマーキャンプなどの企画、実施など、全てグループの人達の自腹で賄っているそうです。

施設の子供達は殆どが親との縁が薄く、施設を巣立った後の就職の世話や進路相談など、親代わりの役割を担うことが多いのもこのグループの特色です。

北里会長より表彰状、副賞の贈呈の後、グループ代表の森川雅志氏より「素晴らしい賞を頂き有難うございました。これからも命の続く限り、子ども達のために頑張りたいと思います」と力強い御礼のご挨拶がありました。

また、カリタスの園、「小百合の寮」施設長シスター松田様からも「本日の表彰は施設全ての者の大きな喜びです。今日帰りましたら、キワニスクラブの皆様方の大きな支えを子ども達に伝えたい」と感謝のご挨拶を頂き、一同強い感銘を受けました。

(前・社会公益副委員長 高橋 淳三)

「学生ボランティア活動の明日 ～キワニスとともに～」

講演会、青少年教育賞表彰式 2010.9.11

2010年9月11日(土)東芝本社の会場をお借りして「学生ボランティア活動の明日～キワニスとともに～」というテーマで講演会を開催しました。

基調講演には、神奈川県立保健福祉大学学長で東京都市活動ボランティアセンター長の山崎美貴子先生をお招きし、「人と人とのつながりを創る」というテーマでお話を頂戴しました。山崎先生は、日本のボランティア活動における第一人者であり、数多くのボランティア活動の実践に、指導者の立場で深く関わっていらっしゃいます。日本においても、地域社会や家族の価値観・暮らし方が変わり、ボランティア活動は、これまで以上に、社会を支える重要な役割を持ち始めているというお話でした。また、ボランティア活動は、無理なく自然にできることから始めることが大切であるということも教えていただきました。イギリスでは、地域社会がひとり暮らしの高齢者を支援し、ひとりで食事をとる高齢者がいない社会が実現しているというお話はとても印象的でした。ボランティアとは何かという本質的なことを改めて考えるきっかけとなりました。キワニスの活動を通じて、人と人が繋がるボランティア活動に今後も従事していきたいと思えます。

講演会では、東京キワニスクラブ青少年教育賞受賞式も行いました。最優秀賞を受賞したのは、CCS世界の子どもと手をつなぐ学生の会です。CCS世界の子どもと手をつなぐ学生の会は、海外にルーツを持つ子

もたちの学習支援を行う学生を中心としたボランティア



ア団体です。現在、約100名の子どもたちを対象に、学生ボランティアがマンツーマンで毎週、学習指導を行っています。現在、日本には、海外にルーツを持ち、日本語の支援が必要な子どもたちが2万5千人いると言われています。CCSでは、学習指導の他にも、高校受験説明会を多言語で実施するなど、海外にルーツを持つ子どもたちの支援を行っています。また、アドボカシー活動も積極的に行い、その成果として、高校受験においてルビ付きの試験問題が利用できるようになりました。優秀賞には、CFF ジャパンと東京都立野津田高等学校手話部が選ばれました。東京都立野津田高等学校手話部の皆さんには、楽しい手話ダンスも披露していただきました。

山崎先生のご講演、表彰団体の発表の後、学生ボランティアの皆さんとキワニス会員でグループディスカッションを行いました。ファシリテーターには、明治学院大学学



生ボランティアセンターで学生ボランティアの指導に当たられている李永淑先生をお招き致しました。世代を越え、多様な経験を持つ皆さんが、ボランティアについての思いやアイデアを活発に共有することができま

した。今後も、表彰をはじめとする活動を通じて、ボランティア活動に真摯に取り組む学生の活動を支援していきたいと思ひます。

(前・青少年教育委員長 熊平 美香)

国際キワニス年次総会ラスベガス大会 2010.6.24 ~ 26

今年の年次総会は95回目となりカジノのメッカ、ラスベガスで6月24日から26日の3日間開催されました。人気の観光地でもあり世界から6000人を越える沢山のキワニアンが集まりました。日本からの代表団は22名でした。このうち東京クラブからは9名が参加いたしました。総会、委員会、ワークショップはラスベガス・コンベンションセンターで開かれ、日本からの代表団の多くは隣接のラスベガス・ヒルトンに宿泊しました。このホテルは繁華街のザ・ストリップから少し奥まった所であって、比較的長く最近出来た煌びやかなホテル群とは一線を画した落ち着いた大きなホテルです。難点を言うとして設備が少し古いところです。

第一日目はパラゾーロ国際会長の開会の挨拶から始まり、ラスベガス市長の挨拶、コーリンパウエルの基調講演と進み、第二次の世界的奉仕活動として発展途上国の妊婦と新生児を蝕む破傷風撲滅運動の概要が発表されました。これは前回のヨード欠乏症の撲滅運動と同様ユニセフと共同で取り組み2015年までに必要な予防注射を全ての対象者に施そうと言うものです。夜はアジアとヨーロッパからの代表団と和気藹々のディナーを楽しみました。

二日目は代議員総会です。先ず役員選挙で次期会長のシルベスタ・ニール氏以下新執行部が選出されました。そして次は規約改正の審議です。全部で14の改正案が上程されましたが、活発な議論の上撤回されるものが出たり、否決されて結局7項目が採択されました。驚いたのは、一つ一つの改正案が提案の説明から始まって支持、不支持の議論を丁寧に行ない、最後は4000人の代議員の投票で決めるという極めて民主的な運営であったことです。また、この投票には各代議員に投票端末のボタンを押して投票する電子投票方式が採用されていることに驚きました。従って採決の結果が瞬時に分かるのです。さすがラスベガスのコンベンションセンターです。この晩は日本の代表団の多くが

ブライアン・キューナット元国際キワニス会長夫妻との食事会でラスベガスの寿司



で舌づつみを打ち、その後サークド・ソレーユのダイナミックなサーカスショーを楽しみました。

三日目は閉会式です。新旧役員の紹介と挨拶のあと人命救助等に功績のあった人々に授与されるコネリー賞の授賞式があり、最後にアラスカ州の消防局長であった新会長のニール氏が優れた奉仕の為にキワニスクラブを燃え立たせようとアピールして閉会の運びとなりました。会議のほかに様々な委員会、ワークショップが開催され、展示コーナーでは各種キワニスドールの展

示や各クラブの活動状況が紹介されていきました。総じて感想を言わせてもらおうと国際キワニスは思ったより大きな組織であり、国際的に大きな奉仕活動



をしている優れた社会奉仕団体であることを実感した次第です。そして、日本からの参加者をもう少し増やせないだろうかと言う点と日本地区の活動のプレゼンテーションを量質共に高めて行った方が良いのではないかと課題として認識した次第です。来年はスイスのジュネーブで7月に年次総会が開催されます。是非沢山の会員に参加していただきたいと思ひます。

(事務局長 吉田 浩二)

第34回キワニス日本地区年次総会京都大会 2010.9.3 ~ 4

第34回日本地区京都大会は、480名という過去最大の参加者を迎えて、9月3日(金)と4日(土)の2日間盛大に行われました。東京クラブからは33名の方が参加しました。

9月3日は、日本地区役員会や「キワニスの明日を語る会」等の個別の会議



が開催された後、年次総会が開催されました。総会は、小池和子ガバナーの挨拶で始まり、続いて小田忠雄国際理事日本地区カウンセラーの挨拶、議事審議と報告、佐藤満秋キワニス日本財団理事長報告、川崎弘 2010 - 11 ガバナーの方針説明、本間充武千葉クラブ会長の次期日本地区総会開催地会長としての挨拶が行われました。

小池ガバナーは、女性中心の千代田クラブの新設、熊本のサテライトクラブの新設など、新しい試みを実現し、会員数も1648名と前期比4%増となり、活動も活発になったこと、日本財団の誕生で、日本地区の活動への支援体制が出来たこと、ASPAC大会で日本地区からの97名が参加し、日本地区の存在が大きくなったことなど、スローガンとして提唱した3つのEの活動の成果が上がったことに対する感謝の言葉を述べられました。小田国際理事は、第2次世界奉仕活動についてこれから1年間しっかりした体制作りを行い、来年のジュネーブ国際年次総会での本格活動開始に備えたいと強調されました。

議事では、日本地区の規約の改正の提案があり、キワニス日本財団の誕生による事務費用の必要性や日本地区活動の活発化に対応するため、各クラブより日本地区に収める会費を一人当たり、8,000円から1万円にするという改定案が提案され可決されました。また、23年9月期の事業計画と予算書の承認、23年9月期の役員・監事の選任が行われ、次期ガバナーとして齋藤翁氏(名古屋)、事務総長に秋山誠一氏(東京)、監事に鍋木栄胤氏(千葉)が選任されました。また、第36回日本地区大会開催地として、和歌山が決定されました。京都大会の決議文として、第4項目に、国際キワニスの第2次世界奉仕プロジェクト運動に積極的に参加しようという項目が追加されました。

議事後、川崎新ガバナーより、京都大会の決議を

しっかり実行し、創造性、多様性、柔軟性を追求して日本地区の活動を更に活発化させてゆきたいと決意表明が行われました。



総会に続いて表彰式が行われ、日本文化賞には、華道家の池坊美佳氏が選ばれ、池坊美佳さんの華道のデモンストレーションが行われました。



▲日本文化賞 池坊美佳さん

犠牲的英雄活動を行った人に贈られるロバートコネリーメダルが火事の中から子ども達を救った杉本亨光氏、木ノ下貴紀氏(共に当時高校生)に伝達されました。また、国際キワニスから表彰の伝達、日本地区からの表彰がクラブ及び個人に対して行われ、東京クラブは、キワニスドール寄贈数、出席率、国際会議出席、キワニスドール・シンポジウム三クラブ合同開催、新入会員2名以上の紹介、在籍30年、85歳以上等で表彰を受けました。

夜には懇親パーティが催され、舞妓さん達の踊りによるあてやかなもてなしが行われ、楽しい一夜を送りました。

翌日の3日(土)は、伏見一日探訪、保津川下り、平安京を探るミステリーツアー、ゴルフ会等のオプションプログラムが行われ、猛暑の中ではありましたが、京都クラブの会員の方々の暖かいおもてなしにより全員楽しい一日過ごしました。来年度は9月11日千葉での開催です。多数の方の参加を期待しています。

(前会長 北里 光司郎)

東京キワニスクラブ定時総会 2010.9.17

9月17日12時45分より次年度事業計画と予算並びに理事・監事改選を審議する恒例の定時総会が法曹会館の高砂の間で開催されました。先ず議長の小池会長から会員89名の出席のほか多数の委任状の提出があり、定款の規定から総会は有効に成立している旨の宣言がなされました。次に役員会から付議された第1号議案の平成23年9月期の事業計画と予算が一括審議されることとなり、先ず中川事務局長から事業計画の説明が逐次なされ、引続き酒井財務委員長から予算案について前年度予算と9月末着地見込みの両面からの比較を含め丁寧に説明されました。その後審議に付されましたが、特に議論は無く満場一致で承認されました。引き続き次年度の理事・監事案が審議に付され

ましたが原案どおり満場一致で承認されました。これにより伊藤康成会員が次期会長に選任され、次期会長候補の副会長として堀井紀壬子会員以下18名の理事と3名の監事が選任されました。

定時総会の終了後、北里現会長から今年度の事業の総括と会員の協力に対するお礼が述べられ、伊藤新会長からは挨拶と共に次年度のクラブ運営に関する抱負述べられました。そして中川現事務局長並びに吉田新事務局長からも一言挨拶とお礼が述べられました。

ご参考までに次年度事業計画の重点項目について触れますと、一般社団法人化を目指す、委員会の連携を図り、他クラブ/CSR推進企業とのネットワークを強化する、諸団体とのタイアップ並びに連携を強化す

ることにより情報発信力を高める、会員の増加を図る、第2次国際奉仕プロジェクトとして「破傷風から世界中の母と子を守ろう」運動への積極的関与などとなっています。

今年は北里会長のリーダーシップの下、会員数も大

幅に増え、委員会活動も活発化し、例会、火曜会、各イベントへの出席率も増加した一年でした。次年度も伊藤新会長の下、東京クラブの更なる発展と奉仕活動の一層の充実化を期待したいものです。

(事務局長 吉田 浩二)

キワニスドールをつくる会 2010.6.19 7.3 7.13

Kファミリー、ボランティア活動両委員会の共催で、「ドールをつくる会」が開催されました。

<定例のつくる会>

・6月19日(土) 田園調布学園

今年2回目のドールをつくる会です。参加者は、田園調布学園生徒・父兄39名、キワニス関係17名(会員8名)と、盛会でした。ドール完成は23個です。

・7月3日(土) 昭和女子大学

学生・教授18名、キワニス関係8名(会員6名)で、経験豊かなみなさんの手さばきの結果、32個の完成を見ました。

それぞれご参加いただきました多くのおみなさま、有難うございました。

<初めての講習会>

・7月13日(火) 女子美術大学院

アートデザインのヒーリング表現領域の勉強をされている教授と学生のおみなさん11名を対象とした「ドールに関する講習会」として開催しました。(参加:西村、松本)

今回はボランティア活動に携わる熱心な一人の学生

▼昭和女子大学での「ドールをつくる会」



によって実現したドールづくりの体験会でしたが、どちらかと言えば製作終了後の懇談会に大き

な成果が有ったように思えます。山野教授は、ヒーリングの視点から病院などの小児医療環境とドールとのコラボの方策を模索していきたい、と発言されましたし、学生からは、医療現場での状況をはじめ聞いたが、ドールへの子どもたちの思いが伝わった、病気の子どもたちに実際に手渡されるドールづくりが体験出来て良かった、ドールを利用せざるを得ない子どもたちが無くなることを願う、などの感想が出されました。

ボランティア活動とは全く無縁に思えるヒーリングデザイン領域とドール活用との相乗作用によって、子どもたちへの癒し効果が更に高まるような工夫が早く実現して欲しいものです。

(ボランティア活動委員長 松本 一紀)

初めてのキワニスドールをつくる会～目黒星美学園 2010.8.27

4月17日のキワニスドールシンポジウムに参加された目黒星美学園の先生から、ボランティア活動に参加している生徒へキワニスドールの紹介をして欲しいとのご依頼をいただき、6月14日、守屋Kファミリー委員長と2名で学園を訪問しました。

先生方やボランティア活動サークルであるアグネス会メンバーの生徒20名のおみなさんに、「キワニスクラブとは」、「キワニスドールとは」について説明、その後質疑・応答となりました。約1時間にわたる説明と意見交換でしたが、おみなさん非常に熱心で、ドール製作の趣旨や病気治療中の子どもたちにとってのドールの意味合いなど、理解を深めていただけたように思います。

説明会の終了後、校長先生から実際にやってみましょう、とのご提案をいただき、「ドールづくりの会」を8月27日に実施することで決定しました。

そして当日、生徒18名、指導の子田先生ほか2名の先生方、キワニス会員とご家族6名の参加を得て、いつも通り「ドールのつくり方」DVDを視聴した後、星

アドバイザーから留意点について解説、一斉にスタートしました。

生徒のおみなさんは今回が

初めての体験にも拘わらず、綿詰めとかがり縫いまでを仕上げる約束でしたので、予定時間を少々オーバーしたものの、全員が見事に責任完遂、しかも全体として非常に良い仕上がりで、今年度モットーとしている「品質の良いドールづくり」に沿った完成品となりました。

終了後、子田先生から夏休みなどを利用して継続していきたい、また青少年シンポジウムには生徒も参加させたいとおっしゃっていただきました。

ドールを通して実現した新しい繋がりを発展継続できるよう、しっかりと取り組んで参ります。

(ボランティア活動委員長 松本 一紀)



//////// マジック・パワーを秘める 「キワニス・ドール」 //////////

「財界」（6月22日号）に北里前会長の随筆が似顔絵入りで掲載されました。

マジック・パワーを秘める「キワニス・ドール」と題して、病気で不安な日々を送っている子ども達を癒す不思議な力を有しているドールのことが内容の中心ですが、キワニスクラブの紹介もされており、ドールは会員の一人ひとりが丹念に心をこめて仕上げられていること、さらにはボランティア活動の重要性についても書かれています。

（広報委員長 古屋 俊彦）



平成 22 年 キワニス・サマーパーティ 2010.7.28



7月28日午後5時半から恒例のサマーパーティが開催されました。銀座サッポロライオンから老舗ライブハウス「バードランド」に会場を移し、女性だけのハワイアンバンド太田紀美子とザ・バーズのハワイアンショーを楽しみました。太田紀美子さんはハワイ州知事からハワイの音楽やフラを日本に広めた功績が大であると評価され、「ハワイアン文化大使」の認証を受けられました。1998年には、ホノルル市で開催された「ハワイ・ミュージック・アワード」で外国人初の「インターナショナル・ミュージック・アワード」も授与されています。

今回は東京キワニスクラブ会員、ご家族に加え、横浜クラブ、千葉クラブ、埼玉クラブ、新しく誕生した千代田クラブにもお声がけをし、夏らしいアロハやドレス

に身を包んだ65名のご参加をいただきました。

司会は東京MXテレビの人気番組「ハワイアンライブ イン バードランド」（11年目500回放映）をプロデュースする青木会員にお引き受けいただきました。軽妙な司会と歯切れの良い演奏、魅力的なコーラス、横浜クラブの加藤会員、東京クラブの小坂会員にも一曲お唱いいただき、最高に盛り上がる中をサプライズゲスト カノエ・ミラーさんが登場されました。カノエ・ミラーさんはフラの女神様と呼ばれ、ハワイのハレクラニホテルで30年間プリマドンナとしてフラを踊っていらっしゃいます。東京ご滞在中にもキワニスドールをつくる会にも参加されました。



7時15分、迫委員長のご挨拶で閉会となり、あっという間の短い時間でしたが、猛暑を忘れさせてくれるような素敵なひと時となりました。

（前・レクリエーション副委員長 荒木 なぎさ）

東京ガス環境エネルギー館見学会

レクリエーション委員会では、会員およびゲスト14名の参加を得て2010年6月2日に、東京ガス㈱が所有・運営している「環境エネルギー館」見学会を催しました。

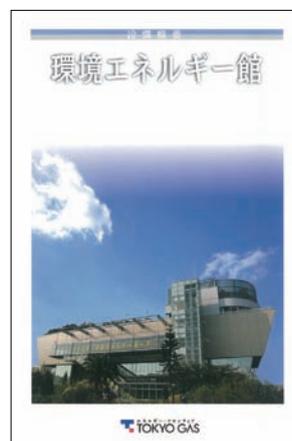
本館は「環境」「エネルギー」「都市」をキーワードとして、地球環境を総合的・体系的に捉え、私たちが生態系の循環（つながり）の中に存在していることを切り口に、未来を担う子供たちの健全な育成を支援し、エネルギーや環境について楽しく学び、正しい知識を身につけられる機会を提供することを目的としています。コンセプトメッセージは、「地球大好き人間（地球のためにしたいせいを持って行動する人）の輪を広げる」。

特色としては1. 単に見るだけではなく参加体験型で

2010.6.2

あること。2. 環境に配慮した設備の導入（建物自体がひとつの展示物であり、光・風・水・緑などの自然の力を最大限に活用し環境への負荷を少なくする事等に配慮していることです。）

館内の構成も非常によく考えられており、工作や実験などのプログラムの展開をする「ワークショップルーム」、昆虫が遊ぶ草はら・めだかのいる池・小鳥が集う雑木林を配した里山の



環境を屋上空間に作り出した生命の生息場所であるビオトープがあり、観察や遊びを通して自然との触れ合いとその大切さが実感できる様になっています。

会員の皆さんも環境問題に対する技術の進捗に感嘆し、子供のころに帰って楽しんでいました。

(前・レクリエーション委員長 迫 秀一郎)

ホームページをリニューアルしました。

検討を進めておりましたホームページがようやくリニューアルされました。

これまで長い間、栗山会員のご好意により更新を継続してまいりましたが、広報委員会において委託先の選定、デザインや内容の構成等について事務局を含めて数回にわたる検討を経て9月22日に更改いたしました。

思い切ってデザインを一新し、見やすさ、わかりやすさを第一に考えてリニューアルいたしました。

特徴は以下のとおりです。

- ・トップページの一覧は活動が見えるようにしました。
- ・PRしたいその時々重点もわかるようにしました。
- ・会員専用ページを設け、ニュース一覧のほか、例会の卓話や文化・レクリエーション行事などを掲載しております。

会員専用ページにはIDとパスワードが必要です。

(すでに例会でのお知らせと文書で配布しておりますが、

わからない方は事務局にご照会下さい。)

なお、当面の必要なデータの修正はしておりますが詳細の内容については更新を逐次進めておりますことをご了承いただきたいと思っております。

新しい情報やデータの更新については毎月2、3回程度、例会を節目に定期的かつ効率的に進めることとしております。

ご意見、ご要望等がありましたら事務局にお知らせください。

皆様のお役に立つホームページにして参ります。

(広報委員長 古屋 俊彦)



お知らせ (今後の予定)



「キワニスドールをつくる会」のお誘い

下記3つの看護学校の学校祭で「キワニスドールをつくる会」を開催します。看護学生や看護師を目指す若者と一緒に楽しくドールをつくりましょう。ご家族、ご友人などお誘いいただき、多数のご参加をお願いいたします。

① 広尾看護専門学校

日時：10月16日(土) 12時～14時

場所：渋谷区恵比寿2-34-10

地下鉄日比谷線広尾駅より徒歩7分

② 板橋看護専門学校

日時：10月30日(土) 12時～14時

場所：板橋区仲町1-1

東武東上線大山駅南口より徒歩5分

都営地下鉄三田線

板橋区役所前駅より徒歩12分

③ 荏原看護専門学校

日時：11月13日(土) 10時～12時

場所：大田区東雪谷4-5-28

東急池上線洗足池駅より徒歩15分

ご参加いただける方は事務局宛お知らせください。ご希望の方に地図を差し上げます。

「オレンジリボンたすきリレー」ボランティアのお願い

11月の児童虐待防止月間の一環として行なわれますオレンジリボンたすきリレーのランナーとちらし配りのボランティアを募集いたします。

今回は東京タワーでチラシ配りをいたしますので、2区(3km)、または3区(4km)がお勧めです。ランナーにご協力いただける方は早めに事務局宛申し出ください。

チラシ配りのボランティアは10月20日(水)までにお申し出ください。

【都心コース】 日時：10月31日(日)

第1区：渋谷駅ハチ公前～

日本子ども家庭総合研究所(麻布)(4km)

第2区：日本子ども家庭総合研究所～東京タワー(3km)

第3区：東京タワー～泉岳寺(4km)

第4区：泉岳寺～品川児童相談所(2.5km)

第5区：品川児童相談所～川崎富士見公園(11km)

第6区：川崎富士見公園～ナイス(株)(鶴見)(4km)

第7区：ナイス(株)(鶴見)～山下公園・石のステージ(9km)

1.ランナー：一般のマラソン大会とは違い、交通ルールを順守して歩道を走行します。希望区間をお知らせください。2区または3区がお勧めです。

2.ちらし配り：時間：午前10時半ごろから1時間程度

(イベントは10:00～13:30)

場所：東京タワー

キワニスドールの使い方

キワニスドール（キワニスクラブで製作した人形）は、病院で若い患者さんに、これからどんな治療をしていくのか説明するときなどにも使われます。傷口の縫合や、酸素マスクを使用しなければならないような場合、お子さんは驚き緊張して怯えてしましますが、キワニスドールを使って説明されると、これから受ける治療の内容がよく判って、怖さや不安が軽減されるそうです。

子ども達はキワニスドールに注射をしたり、時にはお医者さん・看護師さんに教えて貰いながら手術の真似をしたりして、キワニスドール相手の「ごっこ」遊びをしています。人形を身代わりにこれから受ける

治療を体験させると、子ども達の恐怖が和らぎ、治療を受け入れやすくなるそうです。

キワニスドールが真っ白でノッペラボウなのは、子ども達が好きな色を塗り、顔や洋服を描いて遊ぶことができるように、という工夫をしているからです。大人でも病院は厭な所です。病気の子供達にとってはなお更です。治療は苦痛を伴いますし、見知らぬ環境におかれて子ども達は怯えています。

キワニスドールは、痛くて怖い外来での治療や入院生活を少しでも楽しくできたという、特別な玩具なのです。

キワニスドールの報道とPR活動

日本地区で初めて、東京キワニスクラブでスタートしたキワニスドールは、2003年にNHKラジオで全国放送され、また雑誌では、日本フィランソロピー協会の機関誌や、2004年には診断と治療社の「チャイルドヘルス」12月号、2006年3月に医療関係専門誌「メディカル朝日」2006年3月号にも掲載されました。

2005年3月20日、「キワニスドール」が読売新聞で紹介され、全国の読者から大きな反響がありました。また、2005年8月27日、キワニスドールが1時間の番組として、BS朝日から全国に放映されました。この放映番組を基に20分間にダイジェストしたPR版を制作し、また、2006年から2008年まで日本小

児科学会や日本小児保健学会でキワニスドールを紹介し、キワニスドールの普及活動に力を入れています。2009年4月4日にはキワニスドールシンポジウムを東芝本社39F会議室にて250名の参加を得て開催、ドールをつくる喜び、看護師、医師、看護教育の立場からドールの使い方の報告があり、現場の生の声を聞く機会を得ました。このときの様子を約16分のダイジェスト版DVDにして、希望の方に差し上げています。キワニスドールの活動は東京キワニスクラブのホームページでも紹介しています。（第2回は、2010年4月17日に開催され、約300名が参加）

<http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo>

キワニスクラブとは

キワニスクラブは、“世界の子どもたちのために”を合言葉に奉仕活動を行う民間の世界的な団体です。1990年からは、特に幼い子どもたちのための奉仕活動に力を入れています。名称のキワニスは、デトロイト周辺に住んでいたアメリカ原住民の言葉“Num-Kee-Wan-is”（みんな一緒に集まる）に由来します。

キワニスクラブは、1915年1月21日米国デトロイト市で生まれました。当初はアメリカとカナダで発展していましたが、1963年にはヨーロッパ3都市に広がり、現在世界の約90ヶ国、8,000のクラブ、約60万人の会員が国際キワニスを構成し、その本部は米国インディアナポリスにあります。

日本では、東京キワニスクラブが1964年1月24日、アジア太平洋地域で最初のクラブとして設立されました。次いで名古屋、大阪、広島、神戸、仙台、

札幌、横浜、高松、福岡、京都、千葉、和歌山、新潟、泉州、埼玉、西宮、渋谷、福山、熊本、静岡、金沢、松江、鹿児島、芦屋、福島、大分、千代田の順に生まれ、現在28のクラブで会員は約1,600名で活動しています。東京キワニスクラブは、1967年2月27日社会奉仕団体として初めて、厚生大臣より社団法人の認可を受けました。

キワニスドールは、メルボルンのナナワディング・キワニスクラブで、1988年に初めて作られました。メルボルンからオーストラリア全域で広がり、さらに1994年に北欧にも伝播しました。日本地区では2001年11月から取り組み始めました。現在では全世界のキワニスクラブでドールを制作して病院などに寄贈するという活動を行っております。

社団法人 東京キワニスクラブ 会長 伊藤 康成 〒101-0047 千代田区内神田2-3-2 米山ビル

Tel: 03-5256-4567 Fax: 03-5256-0080 e-mail: tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp URL: <http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo>